

144 離婚についての教え NIV : Divorce / NKJV : Marriage and Divorce

マタイによる福音書 19 : 1～12 (T)、マルコによる福音書 10 : 1～12 (R)

本題は、当時のユダヤ社会における律法のもとでのイエスの教えであり、男女平等や多様性を重んじる現代社会の中での完全適用は、一部分を除いて、そぐわない点が多いことに留意する必要がある。

T01 イエスはこれらの言葉を語り終えると、ガリラヤ（→リビング・バイブル：カファルナウム）を去り、ヨルダン川の向こう側のユダヤ地方に行かれた。02 大勢の群衆が従った。イエスはそこで人々の病気をいやされた。

R01 イエスはそこ（→リビング・バイブル：カファルナウム）を立ち去って、ユダヤ地方とヨルダン川の向こう側に行かれた。群衆がまた集まって来たので、イエスは再びいつものように教えておられた。

→サマリアとガリラヤの間を通り（ルカ 17 : 11）

T03 ファリサイ派の人々が近寄り、イエスを試そうとして、「（イエス様、一ヒレル学派の人たちが言っているように一どんな些細な事であっても）何か理由があれば、夫が妻を離縁（→文字どおりには、解放する。リビング・バイブル：離婚、回復訳：離縁、新改訳：離別、NIV、NKJV : divorce）することは、律法に適っているでしょうか」と言った。

R02 ファリサイ派の人々が近寄り、「（イエス様、一ヒレル学派の人たちが言っているように一どんな些細な事であっても何か理由があれば）夫が妻を離縁（→文字どおりには、解放する。リビング・バイブル：離婚、回復訳：離縁、新改訳：離別、NIV、NKJV : divorce : 離婚）することは、律法に適っているでしょうか」と尋ねた。イエスを試そうとしたのである。

→申命記 24 : 1～4

人が妻をめとり、その夫となってから、妻に何か恥ずべきことを見だし、気に入らなくなったときは、離縁状（→リビング・バイブル：離縁状、新改訳：離婚状、NIV、NKJV : a certificate of divorce）を書いて彼女の手渡し、家を去らせる。その女が家を出て行き、別の人の妻となり、次の夫も彼女を嫌って離縁状を書き、それを手に渡して家を去らせるか、あるいは彼女をめとって妻とした次の夫が死んだならば、彼女は汚されているのだから、彼女を去らせた最初の夫は、彼女を再び妻にすることはできない。これは主の御前にいとうべきことである。あなたの神、主が嗣業として与えられる土地を罪で汚してはならない。

→何か恥ずべきこと

- ①シャンマイ学派（狭い解釈）の人たちは、不道德の罪以外の理由で、妻を離縁することはできないとし、
- ②ヒレル学派は、どんな些細な理由でも、妻を離縁できるとした。

【参考】離縁と離婚

離縁 一般的には、夫婦別れを言うが、法律上は、養子縁組によって発生したすべての親族関係を、将来に向かって解消することを言う（→①協議離縁、②裁判上の離縁）。

離婚 夫婦が生存中に社会的に有効な婚姻関係を将来に向かって解消することを言う（→①協議離婚、②裁判上の離婚）。



【参考】シャンマイ学派とヒレル学派

シャンマイは、紀元前後のユダヤ教の指導的律法学者で、ファリサイ派に属し、モーセの律法に対する厳格性、異邦人に対する偏狭性を固守した。また、ローマ権力としばしば紛争を起した。シャンマイの教えに従う者をシャンマイ（シャマイ）学派と言う。

ヒレルは、バビロン生まれのユダヤ教のラビで、40歳の頃にエルサレムに遊学、ファリサイ人の指導者となった。当時ファリサイ派内で有力であったシャンマイ派に対抗して、進歩的論理主義の立場に立った。また、異教徒や改宗者に対しても開かれた態度で接した。シャンマイ亡きあと、ヒレルに従う者がヒレル学派を形成、律法解釈の主流を占めた。

R03 イエスは、「モーセはあなたたちに何と命じたか」と問い返された。

→モーセ＝モーセ五書（創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記）：人々がいかに生き、礼拝すべきかを説いている。

R04 彼らは、「モーセは、離縁状（リビング・バイブル、回復訳：離縁状、新改訳：離婚状、NIV、NKJV：a certificate of divorce）を書いて離縁することを許しました」と言った。

R05 イエスは言われた。

「あなたたちの心が頑固なので、このような掟をモーセは書いたのだ。

T04 イエスはお答えになった。

「あなたたちは読んだことがないのか。創造主は初めから人を男と女とお造りになった。」

R06 しかし、天地創造の初めから、神は人を男と女とお造りになった。

T05 そして、こうも言われた。「それゆえ、人は父母を離れてその妻と結ばれ、二人は一体となる。

T06 だから、二人はもはや別々ではなく、一体である。従って、神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない。」

R07 それゆえ、人は父母を離れてその妻と結ばれ、08 二人は一体となる。だから二人はもはや別々ではなく、一体である。

R09 従って、神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない。」

→（リビング・バイブル）「なぜモーセはそう言ったのか、考えてみなさい。あなたがたの心が邪悪で強情だったから、しかたなく認めたのです。離婚は神の意思に反します。神は創造の初めから、人を男と女とに造られたのです。ですから、人は両親から離れて、妻と一体となるのです。もはや二人ではなく一人なのです。神が一つにくださったものを、だれも引き離してはなりません。

→マラキ書2：16a わたしは離婚を憎むと／イスラエルの神、主は言われる。

神とイスラエルの民を結び付けているのは永遠の契約であるとマラキは捉えていた。マラキにとって、離婚は、伴侶との契約（マラキ2：15）を破棄する裏切り行為であった。

→罪も離婚（罪の結果）も、神の計画の中には存在しない。

T07 すると、彼らはイエスに言った。「では、なぜモーセは、離縁状を渡して離縁するように命じたのですか。」

→ファリサイ派の人たちは、モーセは離縁（離婚）を肯定しているのに、イエスは離縁（離婚）を否定している、モーセの律法とイエスの教えは矛盾している、と考えた。

T08 イエスは言われた。「あなたたち（→男側）の心が頑固なので、モーセは妻を離縁することを許したのであって、初めからそうだったわけではない。09 言うておくが、不法な結婚（→結婚以外の性的不道德）でもないのに妻を離縁して、他の女を妻にする者は、姦通の罪を犯すことになる。」

→ (リビング・バイブル) イエスは答えて言われました。「モーセがそう言ったのは、あなたがたの心が強情なのを知っていたからです。しかしそれは、神がもともと望んでおられたことではありません。言っておきますが、不倫以外の理由で妻を離縁し、ほかの女性と結婚する者は、姦淫の罪を犯すのです。」
→モーセが離縁状(離婚状)を書いて妻を離縁することを許可した理由

- ①あなたがたの心が頑固(強情)なので(決して離縁を命じているのではない)。
- ②離別の道がなければ、最悪の状態になる可能性がある(妻を守るためでもある)。

R10 家に戻ってから、弟子たちがまたこのことについて尋ねた。

R11 イエスは言われた。「妻を離縁して他の女を妻にする者は、妻に対して姦通の罪を犯すことになる。」

R12 夫を離縁して他の男を夫にする者も、姦通の罪を犯すことになる。」 [参照]ルカ 16 : 18

T10 弟子たちは、「夫婦の間柄がそんなものなら、妻を迎えない方がましです」と言った。

→ (リビング・バイブル) 「それなら、結婚しないほうがましです。」弟子たちがイエスに言いました。

T11 イエスは言われた。

「だれもがこの言葉を受け入れるのではなく、恵まれた者だけである。12 結婚できないように生まれついた者、人から結婚できないようにされた者もいるが、天の国のために結婚しない者もいる。これを受け入れることのできる人は受け入れなさい。」

→ (リビング・バイブル) 「そうは言っても、それは、だれにでもできることではありません。ただ、それを許された者だけができるのです。結婚しないように生まれついた人もいますし、人の手で結婚できないようにされた人もいます。またある人は、天国のために、自分から進んで独身を通します。わたしの言ったことを受け入れることのできる人は、受け入れなさい。」

本題は、当時のユダヤ社会における律法のもとのイエスの教えであり、男女平等や多様性を重んじる現代社会の中での完全適用は、一部分を除いて、そぐわない点が多いことに留意する必要がある。